

August 6, 1985

Cable No. 1368, Charge d’Affaires Tanabe to the Foreign Minister, 'Problem of the Release of the American Hostages (Meeting of Special Envoy Nakayama and Deputy Foreign Minister Ardebili)'

Citation:

"Cable No. 1368, Charge d’Affaires Tanabe to the Foreign Minister, 'Problem of the Release of the American Hostages (Meeting of Special Envoy Nakayama and Deputy Foreign Minister Ardebili)'" , August 6, 1985, Wilson Center Digital Archive, Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan, File No. 2017-0631. Translated by Stephen Mercado. <https://wilson-center-digital-archive.dvincitest.com/document/270599>

Summary:

A telegram from Charge d’Affaires Tanabe to the Foreign Minister summarizing a meeting between Special Envoy Nakayama and Deputy Foreign Minister Ardebili at the Iranian Foreign Ministry to discuss the relationship between Japan and Iran, and the release of the American hostages in Lebanon.

Original Language:

Japanese

Contents:

Original Scan
Translation - English

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL217)に連絡ありたい。

極秘

限定配布

大(外)務(外)省(官)	秘書次長	典房
大臣官	審審長	
大外査特	察担	博代表
使研審室		
総(対)文(会)厚(情)才	活	審(察)人(電)在(儀)警(史)
外	審(報)内	際(外)
報	長	二
官		
領	移	二(旅)査(移)
長		
ア	審(地)中(東)	二
長	参(北)東(西)	二
北	審(一)二(保)	
米		
長		
中	審(一)二	
南		
長		
欧	審(一)二(洋)	
長	西(東)	二
近	審(一)二(ア)	
ア		
長		
経	次(参)経(漁)途(国)	
長	審(総)経(エ)国(博)	二(ネ)
	審(海)	
経	審(政)国(開)無	
協	参(調)技(有)理	
長		
条	審(条)協(規)	
長		
国	参(政)経(人)	
長	参(軍)社	
科	科(原)	
審		
情	審(情)析(調)	
調	審(企)安	
長		

電信

--	--	--

総 番 号 R107149
 年 月 06日 23時 59分 イ ラ ン 発
 60年 08月 07日 06時 45分 本 省 着
 外 務 大 臣 殿 田 辺 臨 時 代 理 大 使

主管 近了局長

米国人人質解放問題 (中山特使とアルデビリ外務次官の会談)

第1368号 極秘 大至急

(限定配布)

貴電近ア局長第616号に関し、

6日午前11時10分より1時間20分、中山特使はアルデビリ外務次官とイラン外務省にて会談したところ、概要次の通り (わが方本官他、先方モルシエドザデ第7政務部長他が同席)。

アルデビリ次官

日・イラン関係は、ラフサンジャニ議長訪日の後、一層の拡大が望まれている。日・イラン両国関係においてより強い信頼関係を作り上げることが重要であり、これが両国関係の一層の発展につながるものである。「ラ」議長訪日のフォローアップとして、この度貴特使のイラン訪問が実現したことはよろこばしい。自分としては、個人的に、日・イラン関係の発展にささやかながらもこうけんできたことをうれしく思っており、貴特使とは今後の日・イラン関係の課題について話し合いたい。

中山特使

「ラ」議長訪日の前から貴次官のことはよくお聞きし、貴次官が「ラ」議長訪日に象

Handwritten signature/initials in a vertical box.

外務省

08月07日06時45分

注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL217)に。
3. 本電の主管変更は記帳班(TEL2172)に連絡ありたい。

電 信 写

ちようされる現在の日・イラン友好関係の火だねを作られたと承知している。

自分は、ナカネ総理の「ラ」議長に対する親書を携行してきている。右親書は、「ラ」議長に直接お渡しするつもりであるが、今次イラン訪問における自分の使命がデリケートでかつ困難なものであることにかんがみ、異例ではあるが貴次官に親書の写を一読いただき、自分の使命を承知してほしい。私の使命はこの中に完べきな形で説明されている。

「ア」次官

(親書を一読の後) 「ラ」議長と貴特使の会談の準備は既にできていると承知しており、「ラ」議長は、貴特使に答え得るより良い立場にあると思う。

ナカネ総理の親書において提起されている問題は、日・イラン両国間の理解を深めることに関係があり、この点で日・イラン両国は相互に努力しなくてはならない。日・イラン両国は、相互理解を深めるべきであり、多様な国際問題の中のいくつかの点における日・イラン両国の意見の相違が、日・イラン両国関係の掘じゆう発展をそ害することがあつてはならない。国際テロリズムについては、両国の立場が異なり、イランにはイランの立場があることを理解してほしい。また、日・イラン両国が、両国の意見の相違を前提とした上で、意見交換を行うことは相互理解を深める上で有用であると考えており、例えば、「ラ」議長訪日時には、イ・イ紛争及び国際情勢に関するイラン側の立場を説明し、日本側の理解を深めるのに役立つたと承知している。親書において、貴国は、TWA機事件についてのイラン側の努力を評価されている旨述べられているが、右事件の解決は、直接的にはシリアの努力によるものであり、この種の問題についてのイランの影響力には限界があることを理解いただきたい。

注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2172)に。
に。
3. 本電の主管変更は記帳班 (TEL2172) に連絡ありたい。

電 信 写

中山特使

与えられた使命は誠に容易ならざるものであり、私としては貴次官の公的な支持だけでなく、個人的な支持をも得たい。

わが国は、官民ともに「ラ」議長訪日を高く評価し、右訪日を基点として、政治、経済、技術等の分野における日・イラン両国関係の一層の発展をもたらすべく努力している。就中、ナカソネ総理及び安倍大臣は、具体的な成果をあげるべく努力しており、近い将来この努力が実を結ぶものと期待している。

わが国は、紛争の早期平和的解決及び拡大防止の為のかん境造りに向け、努力してきている。貴国を含む関係国がより現実的な方途をたん求することを望んでいるが、自分の今次イラン訪問においては、和平の問題に立ち入るつもりはない。

日・イラン両国は、国際テロリズムを否定する点では一致している。また、わが国は、TWA機事件における貴国の努力を高く評価している。この関連で7人の米国人を含む外国人がレバノンで依然とらえられたままになっているのは遺憾である。右外国人は、すみやかに解放されるべきであり、貴国がこの為になんらかの形での影響力の行使が可能であると考えられるのであれば、貴国よりもできる限りの努力を行っていただければ有難い。この種の国際テロリズムは、日本も影響を受けることが避けられないような悪気流 (MALAISE) を世界的に拡めるものであり、わが国としても国際的な平和の確立の重要性にかんがみ、無関心であることはできない。ナカソネ総理及び安倍大臣は、

自分に対し内々に表明した。

「ア」次官

注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2173)に。
に。
3. 本電の主管変更は記帳班(TEL2172)に連絡ありたい。

電 信 写

日・イラン両国関係の発展、就中、経済分野における協力関係の発展は、イランの関心の中心であり、相互に努力し、利益となるものでなくてはならない。

イ・イ紛争についてのイランの立場については、既に「ラ」議長訪日時に話し合われている。イランは、自国の正当な権利が確保されると共にこうきゆう的な平和と安定が、この地域に確立されることを希望している。この為には、侵略者の処ばつ、すなわち、サダム・フセイン政権の打倒が必要である。

日・イラン両国は、国際テロを否定する点では一致しているが、問題は、如何なるものがテロと考えられるべきか、という点にある。われわれ(イラン)は、大国が自国の利益を守るとの名目の下に第3国において高度の武器を使用し大規模に違法な行為を行うことをテロとして非難せず、個人または特定のグループが、自この正当な権利回復の為に、例えば短とうなどを使用して行う活動をテロとして非難することはできない。ここに、政治的見解の相違がある。

米国人人質の問題については、既に話し合われたと承知しており、イランは、如何なる形での関連も否定している。また、イランは、第3国においては、限定的な影響力しか有していない。よつてイランは全ゆることを実現し得る訳ではなく、イランに対しTWA機事件と同様の結果を期待されたとしてもそれが実現されるとは限らない。いずれにせよこの問題については、事情が複雑であり、今後の推移を見守る必要があると考えている。

中山特使

国際テロリズムの問題は、ナカソネ総理と「ラ」議長の会談及び安倍大臣と「ラ」議長の会談においても話題になつたと承知している。

注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2175)に。
3. 本電の主管変更は記帳班 (TEL2172) に連絡ありたい。

電 信 写

私はテロリズムについて貴官とアカデミックな論争をするつもりはない。私の任務は実際に問題を解決することである。米国人人質解放問題のような国際的問題のはい景には、種々の要素があり、そう方に言い分もある。また貴国が関与していないという意味も理解できる。しかし、わが国は、TWA機事件の際に貴国が行われた努力を国際的な平和へのイニシアティブとして高く評価している。貴次官の言うように貴国の影響力は限定的なものであり、容易には(本問題は)解決しないということは理解するが、貴国がTWA機事件の際に示した道義的影響力をゆう気をふるつて再度行使してほしいというのが、ナカソネ総理の特使としての自分の願いである。

イ・イ紛争については、わが国は和平のちゆうかい者になろうと言つたことは一度もない。しかし、わが国は、世界の如何なる地域においても平和が維持されることを望んでおり、貴国にも道義的立場から、世界的混乱と不安の原因となつているこの種の事件の解決に努力いただければ、わが国の朝野をあげて、貴国を高く評価すると思う。

「ア」次官

日・イラン両国は、国際テロリズムに反対する点では一致しているが、問題はテロの定義が違う点にある。

これらの問題が、日・イラン両国関係の発展をさまたげないようにすることが重要である。(米国人人質解放問題についての) 貴国の立場の説明はかん迎する。このような意見交換が、日・イラン両国の相互理解の基ほんの上に行い得るようになったということ自体意義深いことであり、両国の相互理解をさらに深めていくことが重要である。

R107149 05

注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2172)に。
3. 本電の主管変更は記帳班(TEL2172)に連絡ありたい。

電 信 写

「ラ」議長と貴使の会談が成功りに終ることを希望するとともに、自分としては右会談の結果をフォローアップする用意がある。

中山特使

このような意見交換は、日・イラン両国間における政治的な協力の一つの形だと思ふ。よくぞここまで日・イランの関係が発展してきたものだと思ふ。今後とも、このような意見交換が継続され、日・イラン両国の政治分野における協力が行われることを希望する。

ところで、「ラ」議長との会談において、ダマスカス(アサド・シリア大統領)と協力してほしい旨自分から言い出したいと思つているが如何。

「ア」次官

「ラ」議長との会談において、この分野におけるイランの努力について話すことは問題がないと思ふ。

TWA機事件の解決は、特別な例で、特殊な国際かん境の下で成し得たものであり、個人的には、イランは決定的な影響力は行使し得なかつたと思つている。TWA機事件と同じような結果が得られるという保証はない。

(中山特使より、「ラ」議長との会談後、再度会つて打合わせたいと述べたのに対し、)

もし、貴特使と「ラ」議長の会談が実りをあげれば、より率直に貴特使と意見交換できると考える。

御見こみにより関係公館に転電願いたい。

課長に連絡済(07日08時0分)
鈴木事務官

(了)

Number: R107149

Primary: Middle Eastern and African Affairs Bureau Director-General

Sent: Iran, August 6, 1985, 23:59

Received: MOFA, August 7, 1985, 06:45

To: The Foreign Minister

From: Tanabe, Charge d'Affaires ad interim

Problem of the Release of the American Hostages (Meeting of Special Envoy Nakayama and Deputy Foreign Minister Ardebili)

No. 1368 Secret Top Urgent

(Limited Distribution)

Re: Your Telegram, Middle Eastern and African Affairs Bureau Director-General's Telegram No. 616

From 11:10 on the morning of the 6th, for an hour and 20 minutes, Special Envoy Nakayama and Deputy Foreign Minister Ardebili met at the Iranian Foreign Ministry. A summary of the meeting's main points follows below. (Other officials and I attended on our side; Seventh Political Bureau Director Morshedzadeh and others attended on the other side).

Deputy Minister Ardebili:

Following the visit of Majlis Speaker Rafsanjani to Japan, there is hope for further expansion of relations between Japan and Iran. It is important to build up a strong relationship of trust in relations between Japan and Iran, which is tied to the further development of the bilateral relationship. It is gratifying that you have realized your visit to Iran, Special Envoy, as a followup to Majlis Speaker Rafsanjani's visit to Japan. I am happy to have contributed personally, if only modestly, to the development of the Japan-Iran relationship and would like to talk with you on issues in Japan-Iran relations from this point onward.

Special Envoy Nakayama:

I have heard much about you since from before the visit of Majlis Speaker Rafsanjani to Japan. I know, Deputy Minister, that you built the fire of the present relationship of friendship between Japan and Iran, symbolized by Majlis Speaker Rafsanjani's visit to Japan.

I have come with a letter from Prime Minister Nakasone to Majlis Speaker Rafsanjani. I intend to deliver this letter directly to Majlis Speaker Rafsanjani. In light of how delicate and difficult my mission is, however, and this is a departure from the usual practice, I would like you to read a copy of this letter and understand my mission. In this letter, my mission is perfectly explained.

Deputy Minister Ardebili:

(After reading the copy of the letter), Special Envoy, I know that preparations have already been made for Majlis Speaker Rafsanjani's meeting with you. Majlis Speaker Rafsanjani is in a better position to be able to respond to you.

The issues raised in Prime Minister Nakasone's letter are related to the deepening of bilateral understanding between Japan and Iran. On these points, Japan and Iran must mutually make efforts.□Japan and Iran should deepen mutual understanding. It will not do for different views between Japan and Iran on a number of points in various international problems to hinder the expansion and development of the Japan-Iran bilateral relationship. In regard to international terrorism, the positions of our two countries differ. I would like you to understand that Iran has its own position. Also, based on the premise of different views between our two countries, I think that Japan and Iran engaging in exchanges of views is useful in deepening mutual understanding. For example, at the time of Majlis Speaker Rafsanjani's visit to Japan, I know that explaining the Iranian side's position on the Iran-Iraq conflict and the international situation was useful in deepening the Japanese side's understanding. In the letter, it says that your country praises the Iranian side's efforts in regard to the TWA Incident. Resolution of that incident was directly due to Syria's efforts. I ask you to understand that there are limits to Iran's influence in this kind of problem.

Special Envoy Nakayama:

The mission that I have been given is not an easy one. I would like to obtain not only your public support, Deputy Minister, but your private support as well.

Our country, both the Government of Japan and the Japanese people, highly appraise the visit to Japan of Majlis Speaker Rafsanjani and, on the basis of his visit to Japan, we are making efforts for the further development of the Japan-Iran bilateral relationship in such fields as politics, the economy, and technology. In particular, Prime Minister Nakasone and Minister Abe are making efforts to obtain concrete results and hope that their efforts bear fruit in the near future.

Our country has been working towards the creation of an environment for the early and peaceful resolution of the conflict and the prevention of its expansion. We hope that your country and the others involved find a realistic way, but I do not intend on this visit to Iran to go into the problem of peace.

Japan and Iran agree on the point of renouncing international terrorism. Also, our country highly appraises your country's efforts in the TWA Incident. In this connection, it is regrettable that the foreigners, including the seven Americans, remain held in Lebanon. Those foreigners should be promptly released. If your country thinks the exercising of its influence in some form for this is possible, then we would be grateful for your country exerting as much effort as possible. This kind of international terrorism spreads around the world a malaise whose influence Japan, too, seems unable to avoid. Our country, too, in light of the importance of establishing international peace, cannot be indifferent.

Prime Minister Nakasone and Minister Abe [TN: section blacked out] ... confidentially told me.

Deputy Minister Ardebili:

The development of the Japan-Iran bilateral relationship, in particular the development of cooperative relations in the field of the economy, is the center of Iran's interest. We must work together and achieve our mutual interests.

Regarding Iran's position on the Iran-Iraq conflict, it was already discussed at the time of Majlis Speaker Rafsanjani's visit to Japan. Iran, together with securing its just rights, hopes that enduring peace and stability are established in this region. For this, the punishment of the invaders, that is to say, the overthrow of the Saddam Hussein regime, is necessary.

Japan and Iran agree on the point of renouncing international terrorism, but the problem lies in what should be considered terrorism. We (Iran) do not criticize as terrorism a great power's using advanced weapons and committing illegal acts on a large scale in a third country in the name of protecting its own interests, and we cannot criticize as terrorism individuals or specific groups carrying out acts using knives and such to recover their own just rights. There is here a difference of political views.

Regarding the problem of the American hostages, I understand that there has already been discussion on it. Iran denies connection in any form to it. In addition, Iran has only a limited influence in a third country. Therefore, it is not the case that Iran can achieve everything. Even if there were hope regarding Iran for an outcome similar to that of the TWA Incident, that may not necessarily be achieved. In any case, in regard to this problem, the situation is a complicated one. I think that it will be necessary keep an eye on future changes.

Special Envoy Nakayama:

I understand that the problem of international terrorism was already a topic in talks between Prime Minister Nakasone and Majlis Speaker Rafsanjani as well as those between Minister Abe and Majlis Speaker Rafsanjani.

I do not intend to have an academic argument on terrorism with you, Deputy Minister. My duty is to actually resolve the problem. There are various elements behind such international issues as the problem of the release of the American hostages. There is probably a case as well for that. I also understand the sense, too, of your country's not being involved. However, our country highly appraises as an initiative for international peace the efforts made by your country in regard to the TWA Incident. As you say, Deputy Minister, your country's influence is limited. I understand that it (this problem) will not be easily resolved, but as Prime Minister Nakasone's special envoy, my own request is for your country once again to courageously exercise the moral influence shown in the TWA Incident.

In regard to the Iran-Iraq conflict, our country never once said that it would be a peace moderator. However, our country desires that peace be maintained in every region of the world. If we can have your country, too, work towards the resolution of this kind of incident, which has become a source of global disorder and anxiety, then I think that our whole nation will highly appraise your country.

Deputy Minister Ardebili:

The problem is that, both Japan and Iran agree on the point of opposing international terrorism, but the problem is in different definitions of terrorism.

It is important that these problems do not hinder the development of the Japan-Iran bilateral relationship. I welcome the explanation of your country's position (in regard to the problem of the release of the American hostages). That such an exchange of views has become possible to conduct on the basis of mutual understanding between Japan and Iran is, itself, profoundly significant. Further deepening of mutual understanding between our two countries is important.

I hope that your meeting with Majlis Speaker Rafsanjani ends in success, and I am prepared to follow up on the outcome of that meeting.

Special Envoy Nakayama:

I think that this type of exchange of views is one form of political cooperation between Japan and Iran. I think it admirable, the point to which relations between Japan and Iran have developed. I hope that, henceforth as well, exchanges of views will be continued and that cooperation between Japan and Iran in the political field will take place.

By the way, I am thinking to say in the meeting with Majlis Speaker Rafsanjani that I hope for his cooperation with Damascus (Syria's President Assad). What do you think?

Deputy Minister Ardebili:

I do not think that speaking of Iran's efforts in this field would be a problem in your meeting with Majlis Speaker Rafsanjani.

The resolution of the TWA Incident was a special case whose achievement was possible within a special international environment. Personally, I think that Iran was not able to exercise a decisive influence. There is no guarantee that an outcome similar to that of the TWA Incident could be achieved.

(In response to Special Envoy Nakayama's saying that he would like to arrange to meet again after the meeting with Majlis Speaker Rafsanjani:)

If your meeting with Majlis Speaker Rafsanjani bears fruit, I think a more frank exchange of views would be possible.

Request forwarding of this telegram to the relevant diplomatic missions

[TN: completed by hand] Division Principal Deputy Director Suzuki contacted (August 7, 08:00)

(End)